

研究紀要・年報

# 縄文の森から

From JOMON NO MORI

第15号

《研究ノート》

鹿児島県における尖頭状石器の出現と展開

黒川 忠広

大隅半島における縄文時代後期後葉の土器の様相  
—中岳Ⅱ式土器を中心に—

宮崎 大和

南さつま市松木藪遺跡で出土した弥生時代後期の鉄鏃について

川口 雅之

境川（万之瀬川支流）流域の弥生時代から近世に至る開発について

倉元 良文

岩川官軍基地の昭和8（1933）年の手紙について  
—岩川小学校訓導の手紙の要約と造営当時の基地の配置—

湯場崎 辰巳

令和3年度 年報

鹿児島県立埋蔵文化財センター

2023. 3

# 『縄文の森から』第15号 目次

---

---

鹿児島県における尖頭状石器の出現と展開

黒川 忠広・・・・・・・・ 3

大隅半島における縄文時代後期後葉の土器の様相  
—中岳Ⅱ式土器を中心に—

宮崎 大和・・・・・・・・ 19

南さつま市松木菌遺跡で出土した弥生時代後期の鉄鏝について

川口 雅之・・・・・・・・ 29

境川（万之瀬川支流）流域の弥生時代から近世に至る開発について

倉元 良文・・・・・・・・ 33

岩川官軍墓地の昭和8（1933）年の手紙について  
—岩川小学校訓導の手紙の要約と造営当時の墓地の配置—

湯場崎 辰巳・・・・・・・・ 43

令和3年度年報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

---

---



# 南さつま市松木藪遺跡で出土した弥生時代後期の鉄鏃について

川口 雅之

The iron arrowhead which is in the latter half of Yayoi period excavated in  
Matsukizono remains in Kagoshima Prefecture

Masayuki Kawaguchi

## 要旨

鹿児島県南さつま市松木藪遺跡で出土した鉄鏃と砥石について、実測図を作成し資料報告を行う。鉄鏃の時期は中九州や南九州の出土事例から弥生時代後期から終末頃で、松木藪遺跡で製作されたものと推測される。南九州における鉄器製作の普及を知る上で重要な資料である。

キーワード 弥生時代 拠点集落 鉄器製作

## 1 はじめに

筆者は、2018年に南九州における鉄器の集成を行った（川口2018）。その際に、本田道輝氏から、松木藪遺跡の大溝で鉄鏃が出土していることを御教示いただいたが、実見・図化することが間に合わず、本田氏から提供いただいた写真のみの掲載となった。弥生時代後期の鉄鏃は、本県において出土事例が少なく鉄器の普及を検討するには重要である。本稿では、松木藪遺跡で出土した鉄鏃と砥石について、改めて資料報告を行うとともに、鉄器の帰属時期について考えてみたい。

なお、資料の実測・公開に当たっては、松木藪遺跡の発掘担当者である本田道輝氏、出土品を保管している南さつま市教育委員会の了解を得ている。

## 2 松木藪遺跡について

遺跡は鹿児島県南さつま市金峰町尾下に所在する（第1図）。金峰山の西麓から田布施平野中央部へと伸びる尾下台地の先端部近くに位置し、標高は約21mである。周辺には高橋貝塚や阿多貝塚、中津野遺跡など弥生時代の著名な遺跡が平野を囲むように所在し、県下でも有数の遺跡密集地帯として知られている。

遺跡は土取り工事によって存在が明らかとなり、本田道輝氏によって昭和53年に発掘調査が行われた。発掘調査は平成7年の6次調査まで行われ、調査面積は約270㎡である（本田1981・1993・2005）。

発掘調査では、大溝や竪穴住居跡、弥生後期土器、石包丁、扁平片刃石斧、砥石、鉄鏃、磨製石鏃、土製投弾などが出土した（第2図）。土器の中には、北部九州、中九州、瀬戸内地方、大隅半島の特徴をもつものがあり、広範囲な地域と交流していたことが窺える。出土した土器群は、松木藪土器と命名され、弥生時代後期土器の編年が示された（本田1980）。

注目されるのは、台地を横断する断面V字形の大溝である。大溝は弥生時代中期末頃に掘削されたと推測され、確認した規模は、幅2～4m、深さ2.5～2.3m、長

さ約80mである。溝跡の周囲はシラス上面まで削平されていることから、本来の大きさは、幅4～5m、深さ2.5～3m程で、溝跡の東側には土塁が存在した可能性が指摘されている。大溝はその規模から判断して、集落防衛を目的とし、当時、社会的緊張が存在したと考えられている（本田2005・2006）

このように、松木藪遺跡は、遺構の規模、交流や交易を示す遺物の存在から、田布施平野における拠点集落と位置づけられている。

## 3 鉄鏃・砥石の報告（第3図）

松木藪遺跡で出土した鉄鏃、鉄器研磨用の砥石について報告する。

鉄鏃は大溝内で出土したもので、同封されていた遺物カードにはMZ 5次A-1区溝内1層527と記されている。平面系が五角形を呈する凹基式の無茎鏃で、基部には浅い抉りが入る。刃部の両辺が直線的であるため、厚さ3mm程の鉄板を鑿によって切断し、研磨加工を行い製作されたと考えられる。平面形が左右非対称のため、未製品との区別が難しいが、破面をみると横断面は紡錘形に近く、刃先に向かって先細りしている。そのため、研磨によって刃先を研いだ完成品と考えられる。長さ4cm、幅2.4cmで重さは3～5g程度と推測される。錆が少なく状態は良い。

砥石は細粒砂岩を使用しており、遺物カードには、最新破壊出土と記されている。長さ12.8cm、幅11.7cm、厚み1.4～6.6cm、重さ1050gである。正面と裏面は研磨によって磨り減り、大きく凹んでいる。砥面は著しく白色に変色し、鉄分が付着しているため、鉄器研磨用の砥石と考えられる。正面の上部には、浅い溝が4条確認できる。今回の調査で、鉄器研磨用と考えられる砥石は、本製品を含めて3点確認できた。目の粗い砂岩を使用している砥石もあり、鉄器の種類や仕上げの工程に応じて使い分けていたと推測される。

#### 4 鉄鏃の時代について

平面形が五角形の凹基式無茎鉄鏃は、先行研究（川越1993，村上2003）や中九州・南九州の出土事例では弥生時代後期後葉以降に確認できる（第4図）。代表的な事例を挙げると、本県では、志布志市春日堀遺跡（公財鹿埋セ2020）で古墳時代前期前半の出土事例がある。また、熊本県では熊本市神水遺跡（熊本市2003），阿蘇市下山西遺跡（熊本県1987），阿蘇市幅・都留遺跡（熊本県2019）で弥生後期後葉から終末，宮崎県では川南町尾花A遺跡（宮崎県2011）で弥生時代後期後葉から終末の出土事例がある。

このような出土事例から，松木藪遺跡の鉄鏃の帰属時期は弥生後期後葉から終末頃ではないかと推察される。中九州や南九州の拠点集落では，弥生時代後期後葉から古墳時代初頭に鉄器の生産が行われていることが指摘されている。（村上1992，川口2018）。松木藪遺跡で出土した鉄器研磨用の砥石は，鉄鏃の製作が行われていた可能性を示しており，南九州における鉄器の製作・普及を知る上で重要な考古資料である。

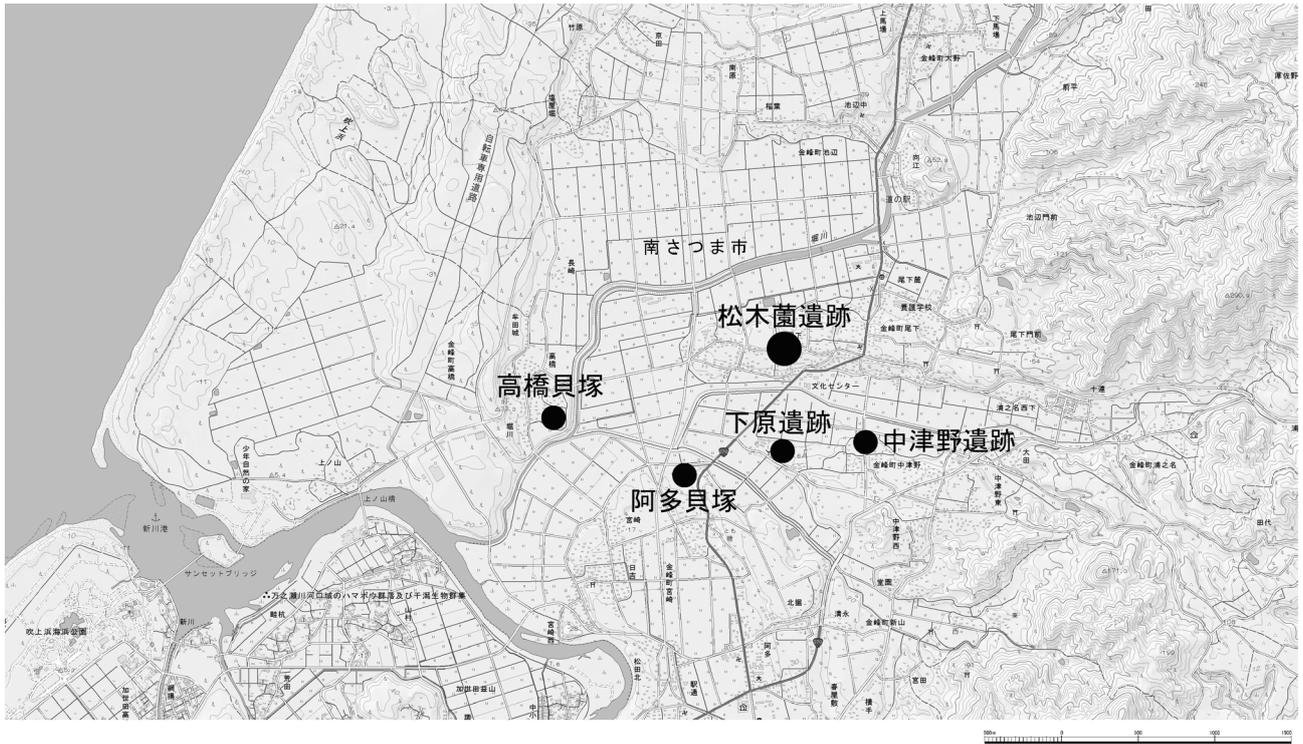
#### 謝辞

本論を作成するに当たり，本田道輝氏には当時の調査状況等について，御教示いただきました。また，資料調査については南さつま市教育委員会に，文献の提供については前迫亮一氏，上床真氏の御協力をいただきました。末筆に記して感謝申し上げます。

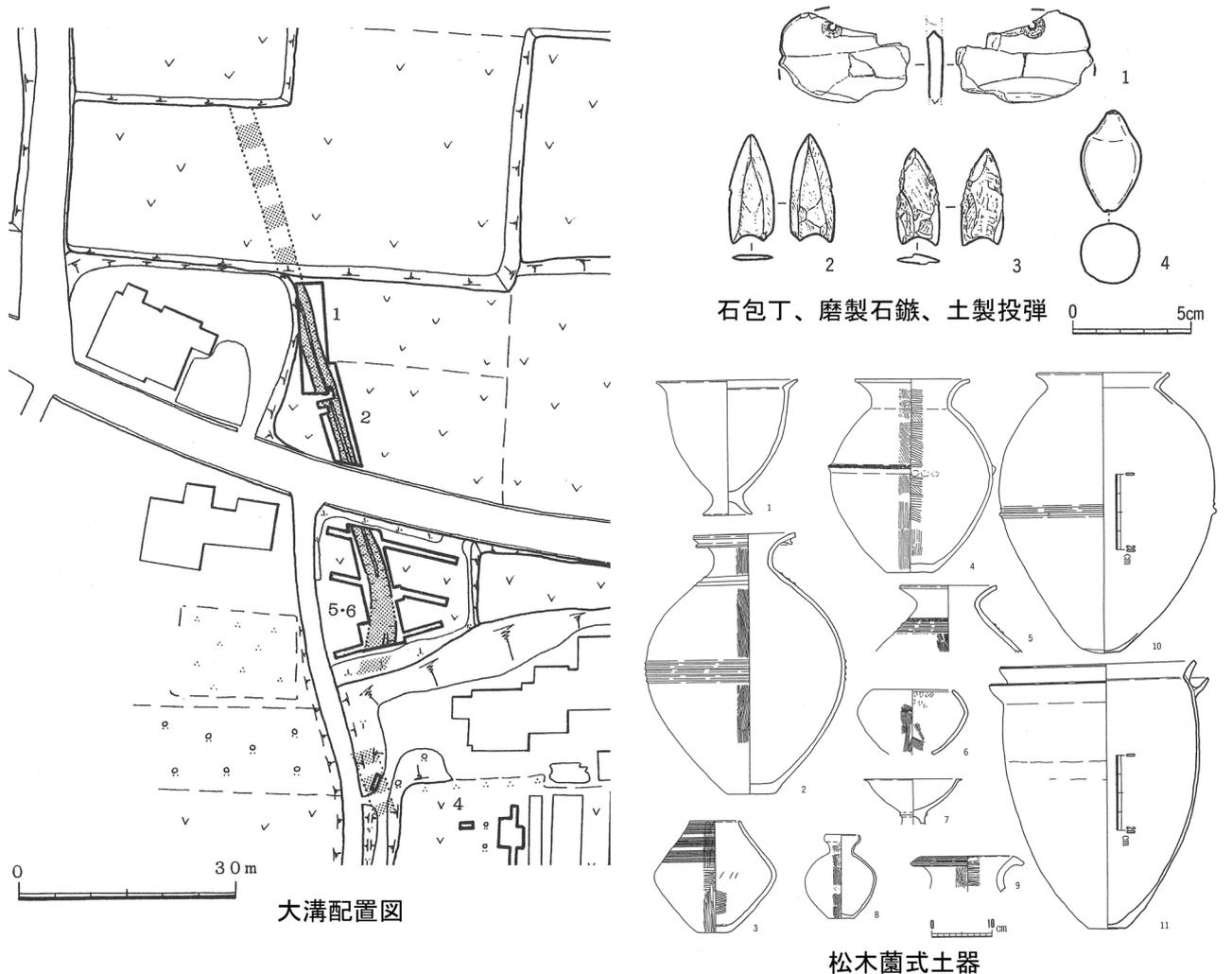
#### 【引用・参考文献】

- 川口雅之2018「弥生時代の南九州における鉄器集成」  
『鹿児島考古』第48号
- 川越哲志1993『弥生時代の鉄器文化』雄山閣  
熊本県教育委員会1987『下山西遺跡』熊本県文化財調査報告書88
- 熊本県教育委員会1992『二子塚遺跡』熊本県文化財調査報告117
- 熊本県教育委員会2019『幅・都留遺跡』熊本県文化財調査報告336  
（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター2020『春日堀遺跡1 縄文時代中期～近世編』  
（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書32
- 本田道輝1981「松木藪遺跡の調査」『鹿大史学』第29号  
鹿大史学会
- 本田道輝1993「松木藪遺跡検出の住居跡について」『大河』第4号 大河同人
- 本田道輝2005「松木藪遺跡」『先史古代の鹿児島（資料編）』鹿児島県教育委員会
- 本田道輝2006「学術所見 鹿児島県域における弥生時代の大溝について」『寺山遺跡』寺山遺跡民間調査会・川辺町教育委員会
- 宮崎県立埋蔵文化財センター2011『尾花A遺跡Ⅱ（弥生

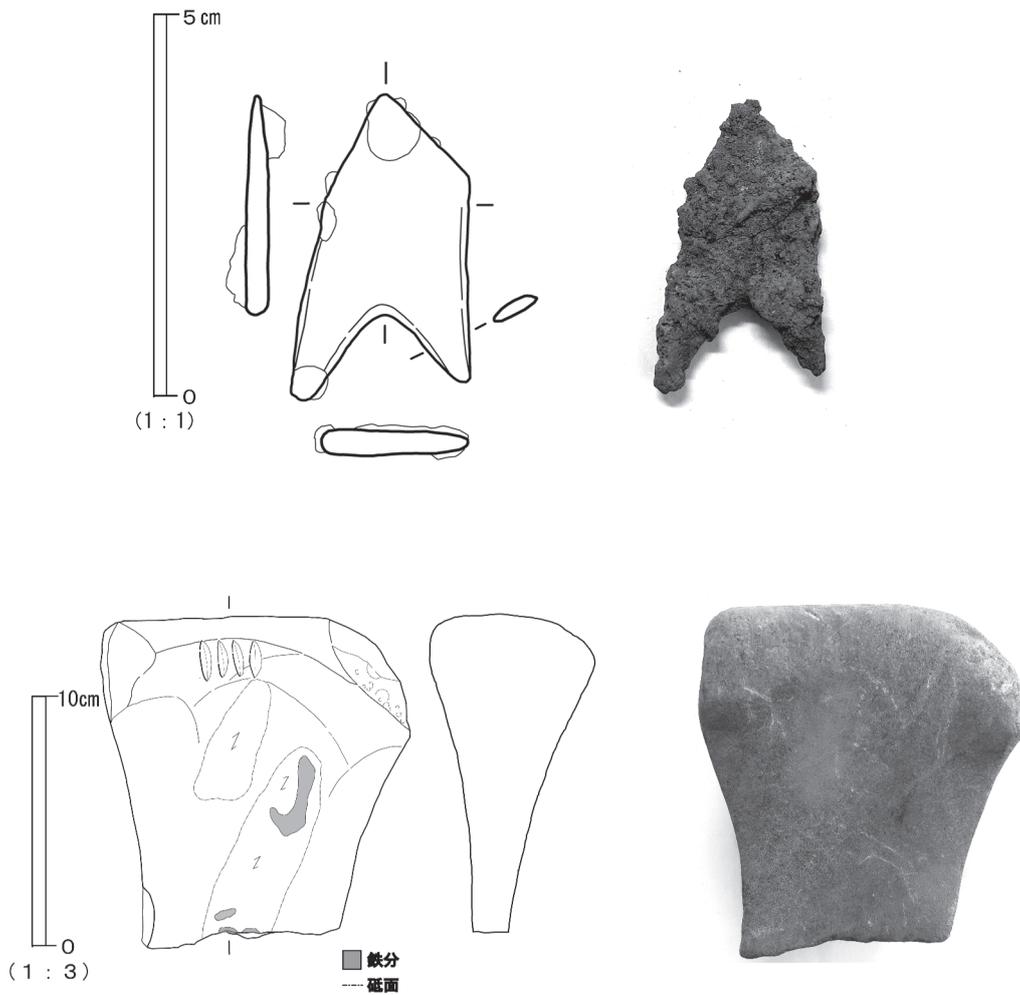
- 時代以降編）』宮崎県埋蔵文化財発掘調査報告書195  
村上恭通1992「中九州における弥生時代鉄器の地域性」『考古学雑誌』第77巻第3号
- 村上恭通2003「弥生時代の鉄鏃—古墳時代初頭まで—」  
『考古資料大観 弥生・古墳時代 鉄・金銅製品』第7巻 小学館



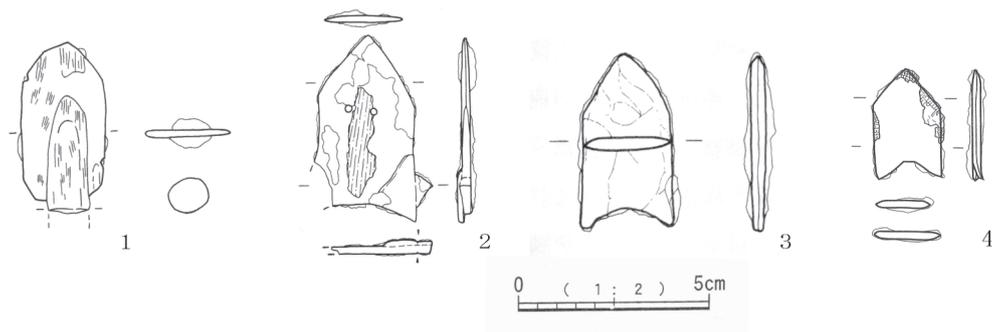
第1図 遺跡位置図 (1/2,500)



第2図 松木菌遺跡の遺構・遺物 (本田2006より転載)



第3図 松木菌遺跡出土鉄鏃・砥石



第4図 中九州・南九州の無茎凹基式鉄鏃（弥生時代後期後葉～古墳時代前期前半）  
 （1志布志市春日堀遺跡、2阿蘇市幅・都留遺跡、3熊本市神水遺跡、4川南町尾花A遺跡）

---

鹿児島県立埋蔵文化財センター

研究紀要・年報 **縄文の森から** 第15号

※なお、本研究紀要は査読誌です

発行年月 2023年3月

編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号

TEL 0995-48-5811

E-mail [maibun@jomon-no-mori.jp](mailto:maibun@jomon-no-mori.jp)

URL <https://www.jomon-no-mori.jp>

印刷 有限会社 国分新生社印刷

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久627-1

---